

## 長良川にもポロロッカ？

今本博健

潮汐が河口に達すると、上昇した海水の影響で潮汐波が河川を遡る。アマゾン川では5mほどの高さの波が段波状になって最大65km/sの速度で800kmの内陸部に達することがあり、ポロロッカ（大きな騒音の意）といわれている。同じような現象は世界の各河川で見られ、ベネズエラのオノリコ川ではマカレオ、中国の銭塘江では海嘯かいしやうといわれている。



写真1 アマゾン川のポロロッカ

図1は長良川での観測史上最大の流量を記録した2004年10月洪水のときの水位観測所での観測水位である。図2は図1の一部を拡大表示したもので、見やすくするため水位の0点をずらしている。

これらによると、洪水波のピークが上流から下流へ流下する一方で、潮汐波のピークが河口から上流へ遡上しているのが確認できる。ポロロッカの長良川版といえなくもない。

河川管理者は1976年洪水の第4波時の粗度係数を洪水痕跡より算定しているが、第4波の河口への到達時刻は満潮時に近く、実測水位より大きな水位を用いたことに潮汐の影響が加わり、粗度係数を過大に評価してしまったのである。

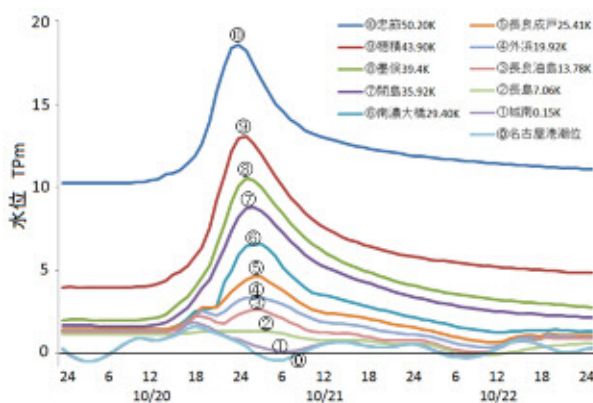


図1 2004年洪水ハイドログラフ

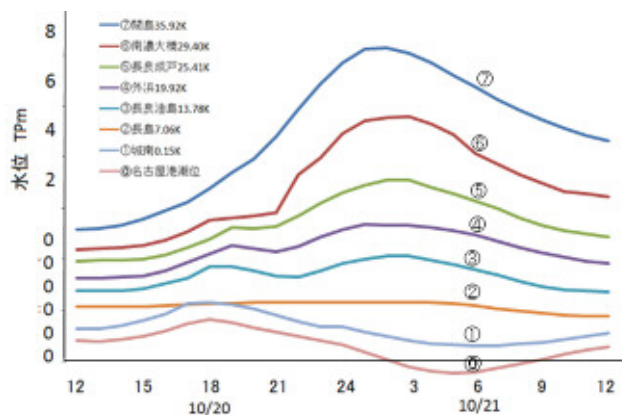


図2 2004年洪水ハイドログラフ部分拡大図

